

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3072400538
法人名	株式会社 イクロス
事業所名	グループホームパル白浜
訪問調査日	平成20年 9月 10日
評価確定日	平成20年 9月 26日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

#### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3072400538		
法人名	株式会社 イクロス		
事業所名	グループホームパル白浜		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2927-80 (電話)0739-42-3570		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成20年9月10日	評価確定日	平成20年9月26日

【情報提供票より】(平成20年8月25日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成15年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	4人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.3

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55000円・7000(円)	その他の経費(月額)	円
敷金	有(100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800円		

## (4)利用者の概要(平成20年8月25日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.5歳	最低	70歳	最高	98歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	財団法人白浜医療福祉財団 白浜はまゆう病院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘に位置する鉄筋コンクリート造りの建物は保養所を改造したグループホームであり、居室からの眺めがよく、建物の1階では天然の温泉が楽しめる。構造上家庭的な雰囲気はつくりにくい、居室には馴染みの物を持ち込み、共有部分に季節の花を飾るなど、生活感が出るように努力している。居住部分は3階にあり、2階には玄関と、併設のデイサービスがある。2階と3階は吹き抜けになっているため圧迫感はないが、共有部分はやや狭くなっている。事業所の地理的環境から地域住民との交流の機会は少ない。職員は明るく、入居者と共にゆったりとした時間を過ごしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>施錠については改善に向けての試みはなく、安全上の問題を理由としてエレベーターと階段には常時鍵がかけられており、入居者が一人で3階フロアから出ることにはできない。地域との交流については、近くの小学校へ出かけるなどの試みを始めたが、地域を意識した理念は作られていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者と職員2名が中心となり行った。他の職員も全ての項目に目を通し、質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議には市や地域包括支援センターの職員、地域住民の代表として商工会の副会長、家族の代表がメンバーになっており、3ヶ月から6ヶ月に1回の頻度で開催されている。家族会と会議の日にちを合わせて家族が参加しやすくしている。内容は、ホームが行っている地域住民への認知症についての啓発活動の報告が主である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>1年に1回家族会が開催されているが、家族からの意見はほとんどない。ホームには意見箱も設置しているが、具体的な意見が出たことはない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元住民が近くにいないため入居者が近くの住民と言葉を交わすことは難しい。地理的な制約から地域との交流を持ちにくいので、入居者とともに出かけて地域住民と会う機会を持つよう努力している。今後はホームでの催し物に地域住民を招待することも計画している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書にある法人の理念には、「入居者本人の意思を尊重し、地域社会で自立した生活と自己実現を目指す」とあるが、事業所内に掲示している理念の中には、地域との関わりに関する内容は明文化されていない。		地域密着型サービスの理念である、地域との交流も理念として盛り込むことが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は入所者だけでなく訪ずれた家族に対しても、笑顔と満足が得られることを理念として共有し、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の近くには地域住民が少なく交流の機会が少ないが、近くの小学校の運動会を入居者と共に見に行くことを試みた。今後地域との交流を深めるため、ホームでの催し物に地域住民を招待することを計画している。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者がかかわることはほとんどないが、評価は管理者と職員2名が中心となって取り組んでいる。他の職員も全員評価には目を通しており、ケアの質の向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、市の職員、地域包括支援センターの職員の、地域住民代表に商工会の副会長、家族の代表がメンバーとなり、3～6ヶ月に1回開催されている。内容としては、認知症やグループホームを地域の方に理解してもらうことが主題となっている。		地域住民との交流がより深まるように、民生委員など、複数の地域の住民をメンバーに加えることが望ましく、入居者本人の会議への参加も検討してほしい。運営推進会議を活用できるように議題のテーマの持ち方を工夫することを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「やすらぎ支援」や開設者研修の実習先としての依頼が市からあり、受け入れている。ホームからは市に虐待防止の講習を依頼した。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りを家族に送り、入居者の暮らしぶりやホームの情報を伝えている。家族の訪問時には、便りで伝えきれない内容を直接伝えている。状態が急変した時には電話にて連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱を置き、年に1回の家族会ではアンケートを配り意見を募るようにしているが、具体的な意見は出ていない。		モニタリングなど工夫して、家族からの意見や苦情を表しやすくできるような取り組みを期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者のケアには職員全員でかかわっているので、過去に退職した職員はいるが、入居者に混乱は無かった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1度は内部研修を行い、外部研修も積極的に取り組んでいる。研修は、職員の休日であっても業務として扱い、職員の負担とならないように配慮している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に入会しており、ホーム間の相互研修を行っている。地域ケア会議においても他事業所と交流を持ち質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前は何度も本人にホームに来てもらい、慣れてから入居できるようにしている。入居時には、本人の馴染みの物を持ってきてもらうことを家族に説明し、理解を求めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯物を干したり、料理の下ごしらえなど、入居者のできることは手伝ってもらいながら、助け合って生活しながら心の交流ができています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の性格や生活歴などを考慮し、できるだけ本人の意向の把握に努めている。まだ利用には至っていないが、アセスメント方式にセンター方式の導入も検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望と職員の願いを勘案しながら、本人の意思が確認できない場合は、本人にとって何がよいのかを模索しながら、職員全員で計画を立てている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態に変化が無い場合は、計画の骨子は認定期間をもとに作成している。見直しは概ね3ヶ月に一度行っており、計画の変更に関する話し合いは1ヶ月に一度行っている。状態が変わればその都度計画を見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の階下に併設のデイサービスがあり、入居者が希望すれば、一緒にデイサービスのプログラムに参加できるようにしている。毎週1回、訪問看護によるバイタルチェックを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望により決定しており、事業所の提携病院を無理にすすめることはしていない。入居者の受診は定期的な場合家族に依頼するが、予定外の受診はホームから送迎している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問看護と提携し入居者のケアに取り組んでいるが、ターミナルを迎えた時は病院へ移送することが多い。ターミナルに対応していく事業所の方針はあるが、家族やかかりつけ医との十分な話し合いはできていない。		できるだけ早いうちから意思の確認、十分な家族との話し合いを行うことが望ましい。また、事業所としてターミナルについての方針として、出来ることと出来ないことを明確にすることを期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族とも話し合い、本人が最も気に入る呼称を使っている。排泄時には周囲に気付かれないようさりげなく声かけをするようにしている。個人情報の扱いについては、全職員が誓約書を書きプライバシーに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食や大浴室での入浴などの時間は決めているが、小浴室での入浴や外出、デイへの参加は特に時間を決めることなく、入居者の希望に添うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体機能の低下した入居者が多く、動ける人は限られてしまい、できないことも多いが、配膳や後片づけは入居者と職員と一緒に進んでいる。職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	居住部分は3階で、温泉の大浴室が1階小浴室が2階と離れている。大浴室はデイサービスで使うため入浴できる時間は月、水、金の午後2時から4時の2時間だけである。小浴室は自由に使用できるが、希望する入居者はほとんどいない。		ホームの構造上難しい面もあるが、入浴は自由に行えることが望ましい。排泄時など体を汚した場合も、階下に降りなければ体を洗えないため、ホームと同じ階に体を洗える設備を設置することが望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年に1回の家族会では家族と共に外出している。掃除は毎朝入居者と職員と一緒に進んでいる。希望に合わせてデイサービスのプログラムに参加できるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や毎朝の散歩、花の水やりなど、入居者の希望に合わせて外出できるようにしている。閉じこもりがちな入居者には声かけをしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段とエレベーターは常時施錠されている。居住スペースの3階から入居者が一人で降りることはできず、必要に応じて職員が鍵を開け付き添う。職員は鍵の弊害を意識していて、3階だけでなく午後は2階で過ごせるように配慮はしている。		3階からの眺めは良いがフロアから自由に出られず閉そく感がある。敷地内には畑や庭などくつろげる空間があるので、自由に出入りできるような工夫が求められる。入居者の行動パターンを把握して見守り、不安を与えないようなケアが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回入居者と共に避難訓練を行っているが、近くに民家がないため地域住民と一緒に進んでいない。		自治会への参加などを通し、地域との交流を深め、住民と一緒に避難訓練を行うことを期待する。事業所の近くに避難所が無いので、3日分程度の備蓄も必要と考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は一人ひとり記録に残し、全職員が把握している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の風を入れたり、共有スペースに季節の花を飾ったりして季節感を取り入れているが、保養所施設を利用しているため、家庭的な雰囲気に欠けている。1階の大浴場で温泉を楽しめるが、体を洗う設備と車いす対応のトイレが3階にはない。		戸棚に「物を持ち出さない」と張り紙をするよりもカーテンで戸棚の取っ手を目立たなくしたり、タペストリーなどでメリハリをつけ場所間違いを防ぐ工夫が望まれる。居室のある3階フロアーに、シャワールーム、車いす対応のトイレを設置する等、鍵のことも含めて、運営者の理解を得てハード面の改良も検討してほしい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には同じベッドとタンスが備え付けられているため画一的になりやすく、また家族の協力が得られにくい入居者もあるが、できるだけ入居時には本人の使っていた馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。個人のものとしては鏡やテレビ、座椅子などが置かれるいる。		